フロンティアスクール　実践研究計画書

白鷹町立東中学校　　校長氏名　齋藤　和男
所 在 地　〒992-0832
山形県西置賜郡白鷹町荒砥乙 1158
TEL　０２３８－８５－５５３１

	１　年	２　年	３　年	特殊学級	合　計	教員数
学級数	３	３	３	１	１０	２３
生徒数	９１	１１３	１１６	１	３２１	

1　研究主題

『個を生かす授業の創造』

～生徒同士の関わりを大切にしながら､基礎･基本を定着させる指導の工夫～

2　研究の内容、方法

（１）　生徒の「学力」に関する実態と主題設定の趣旨

平成１３年２月に、生徒・保護者・教師にアンケート調査を行い、本校の学習指導における課題を探った。その結果、「わからないところをそのままにしている 。勉強の方法がわからない。ながら勉強が多い。家庭学習の時間がリズムとして確立されていない。」などの問題点が浮かび上がってきた。そしてその背景として、理解していないままに授業が進み、学習への意欲が高まらず、学力の向上にもつながっていないということが明確になった。

そんな課題の中、本校は、平成１４年度～１６年度の３カ年にわたり、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、実践研究を行うこととなった。本研究指定を受け、「生徒一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導」の充実を図り、基礎・基本を確実に定着させること、さらには生徒同士を関わらせながら個を生かすことを目指し、上記主題を設定した。

（２）　学力観とめざす生徒像

①　本校の学力のとらえ方

学力を次の３つの側面からとらえた。

学力
- 学んだ力＝知識・技能（学習到達度）
- 学ぶ力＝学び方　問題解決の思考力・判断力
  問題解決の技能と表現力
- 学ぼうとする力＝学ぶ意欲・関心・態度

実際の学習場面では、この３つは相互に深く関わっており、切り離して考えることはできない。新しい学力観に立つ学習指導においては、「学ぶ力」と「学ぼうとする力」が重視されているが、その土台として「知識・技能」の習得は不可欠であり、同様に重視しなければならない。個々の生徒によって鍛えるべき側面は違うはずだが、本校では基本的に「知識・技能」の基礎・基本の定着を学力の第１段階と考えたい。この段階を鍛えることによって、その活用能力を高める指導につなげることができ、より個性を伸ばす学習が展開できると考える。

「学ぶ力」や「学ぼうとする力」の基礎・基本も鍛えていくため、練り合い・磨き合いなど生徒同士を関わらせながら、それらの育成を図りたい。そしてそういった手法を用いながら、「知識・技能」の基礎・基本を確実に定着させることを目指していきたい。

基礎的・基本的学習内容については、新学習指導要領に示される各教科の内容がそれに該当するとするが、学力の３つの側面を考えた具体的な「基礎・基本」は本校でまとめた観点別学習評価規準がそれにあたると考え、研究を進めていきたい。

② めざす生徒像

o 目標や課題がわかり、その達成に向かって意欲的に取り組む生徒 o 他の生徒と関わり合いながら課題の解決を図り、その過程で得た基礎的・基本的学習内容を自分の言葉でまとめたり説明したりできる生徒 o 目標に対する自分の到達度がわかり、それをもとに発展学習や補充学習に自ら進んでいく生徒

（３） 研究の仮説・視点

① 研究の仮説

ア 生徒一人一人の実態に即し、発展的学習・補充的学習などの個に応じた指導のための教材・指導法を工夫すれば、意欲的に学習が展開されるとともに、基礎・基本を定着させることができるのではないか。

イ 生徒同士が関わり合い、自分の考えを確かめたり、修正したり、広げたりする場面を設定していけば、個が生かされ、意欲的に学習が展開されるのではないか。

ウ 目標に対する評価活動を取り入れ、その結果から個に応じた学習を展開していけば、基礎・基本を定着させることができるのではないか。

② 研究の視点

ア １時間毎または数時間の小単元毎に、目標の到達度を把握できるような評価活動を工夫して行い、発展学習・補充学習等、個別学習への展開を図る

イ 自力で課題解決させる場と、生徒同士を関わらせる場を設定し、それぞれの場で学習プリント・手引き・助言等、個が生きるような支援を工夫する

ウ 数学科と英語科においては、次のような指導方法・指導体制の工夫を行う

＜数学科＞

第２学年３クラスについては毎時間ＴＴ方式の授業を行い、第３学年３クラスについては毎時間コース制学習（習熟度別学習）の授業を行う。

＜英語科＞

第３学年３クラスについては毎時間ＴＴ方式の授業を行う。

3 研究計画

＜第１年次＞

○ 生徒の基礎的・基本的学力調査の実施と分析

○ 「学力向上フロンティアスクール」実践研究の３カ年にわたる研究計画の作成と研究体制の確立

○ 主題追求のための授業研究の実践

○ 主題追求のための日常の授業実践

（数学科）

第２学年３クラスについては毎時間ＴＴ方式の授業を行い、第３学年３クラスについては毎時間コース制学習（習熟度別学習）の授業を行う。

（英語科）

第３学年３クラスについては毎時間ＴＴ方式の授業を行う。

（その他の教科）

他教科では従来の授業形態の中で、個に応じた指導のための指導方法の工夫改善を行う。

○ 必修教科における各単元の観点別評価規準表の作成とそれに基づく評価基準（３段階基準）の作成

○ 単元テスト実施の奨励と発展・補充学習との連携

○ 一定期間後に同じ単元テストを実施することによる定着度の調査（年間で各教科１単元程度）

月日(曜)	研究内容	授　業　研　究	その他の研究	指導主事要請
4/17(水)	全体研修(今年度の学校研究の内容と方向性について)			
5/29(水)	研究内容確認	理　科(1-2)　　鈴木清教諭	教科部会	◎
6/26(水)	授業に基づく	国　語(2-3)　　安達教諭	教科部会	◎
10/21(月)	授業に基づく	英語TT(3-2)八木･佐々木教諭	教科部会	◎
		体　育(2-2･3)　　柿崎教諭		
11/25(月)	授業に基づく	数学TT(3-3)渋谷･鈴木亮教諭	教科部会	◎
		技術家庭(1-1)　　高橋教諭		
12/	学校研究の反省と研究			
2/	学校研究のまとめ、次年度の研究の指針			

＜第２年次＞
- ○　研究主題「個を生かす」の深化・発展
- ○　必修教科・選択教科連携による、発展学習・補充学習計画の作成
- ○　必修教科における各単元の観点別評価規準表と評価基準（３段階基準）の見直し
- ○　発展学習・補充学習教材の開発

＜第３年次＞
- ○　研究主題「個を生かす」の深化・発展
- ◎　公開授業の準備と実施
- ○　必修教科・選択教科連携による、発展学習・補充学習計画の見直し
- ○　必修教科における各単元の観点別評価規準表と評価基準（３段階基準）の見直し
- ○　発展学習・補充学習教材の活用
- ○　研究のまとめの作成

4　研究の評価

（１）　評価の視点

○　学習面での「基礎・基本」が定着しているかどうかを評価する。

（２）　評価の方法

○　標準学力テストの結果を分析し評価する。また、各教科毎、同じ問題による単元テストを実施し、その結果を蓄積・分析し評価する。